



TITLE:

<シンポジウム報告>伝統芸能の継承形態に関する生涯学習的考察：京劇「全盛期」の劇作家への注目から

AUTHOR(S):

宋, 佳

CITATION:

宋, 佳. <シンポジウム報告>伝統芸能の継承形態に関する生涯学習的考察：京劇「全盛期」の劇作家への注目から. 京都大学生涯教育フィールド研究 2013, 1: 71-72

ISSUE DATE:

2013-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/174238>

RIGHT:

【シンポジウム報告】

伝統芸能の継承形態に関する生涯学習的考察
—京劇「全盛期」の劇作家への注目から—

宋 佳

Inquiry into Mode of Succession in Traditional Performing Arts from the
Viewpoint of Lifelong Learning;with the special interest in scenario writers
of Beijing Opera in its golden age

Song Jia

・はじめに

本研究は、中国の代表的な伝統芸能として知られる京劇に着目し、京劇「全盛期」（1910年代～1930年代末）の劇作家に焦点を当て、当時の創作活動とそこでの劇作家の役割を考察した。「全盛期」の代表的な劇作家として、齊如山と翁偶虹を考察の対象とし、各々の執筆した回顧録、研究ノート、その他の活字史料などを用いた。彼らの創作活動と役割を明らかにすることを通して、生涯学習の視点から伝統芸能の継承における創作活動のあり方が、それに関わる人々の学びをどのように生成・促進・変容していく可能性を持つのかを考えようとしてきた。

・本論

まず、中国で経済グローバル化が伝統芸能にどのような影響を及ぼしてきたかを考察した。伝統芸能は伝統文化の重要な形態として、その社会の基本的性格を反映している。伝統芸能の伝承・継承の変容を見ることにより、伝統文化の変容、およびその社会全体の変容のあり方を知ることができる。と考える。

次に、筆者は京劇の創作形態について、現代の京劇の創作形態と京劇全盛期の創作形態の比較を通して、次の二点を明らかにした。①劇作家が創作グループの中核から排除されたことは現代の京劇創作形態と「全盛期」の京劇創作形態との根本的相違である。②劇作家のない創作グループは新しいものを生み出さないため、京劇の継承に大きな障害になるという点も明らかになった。「全盛期」の代表的劇作家としての齊如山と翁偶虹を取り上げ、各々の創作活動を考察した。考察から得られた知見は次の通りである。

第一に、それは、劇作家はもちろんのこと、俳優や京劇に関わる講師、梨園の先輩や観客、劇場の運営者、照明や伴奏、衣装係などの舞台裏で働く人、そして時に観客、批評家などからなるコミュニティであること。

第二に、開放的・流動的でありながらも、価値観が確立し共有される安定性を有していること。

第三に人と人との交流を通しての無意図的で相互的な学びが生まれていることである。このような学習コミュニティのなかでは、各々のメンバーの知や経験は循環し、相互の向上に貢献しながら、コミュニティ全体が成長していくといえる。

さらに、支援者としての活動を通して、劇作家は、公演とその準備などの過程で俳優の学びを助け、京劇にかかわる様々な人の京劇への理解と芸術的価値観を深めたのである。一方、劇作家は支援者としての活動を通して、俳優養成に貢献しただけでなく、京劇の伝統的な慣習の継承にも貢献した。

・まとめ：

第一に、伝統芸能の創作活動に関する学習コミュニティの構築はその継承形態に一定的な影響を及ぼしたと言える。

第二に、劇作家は創作グループの中核メンバーとして、創作の原動力としての機能をもつことは、京劇の継承形態において重要な点であると言える。

第三に、劇作家の専門性を追究することは、京劇の継承形態に不可欠であると言える。

第四に、京劇「全盛期」の創作活動の形態を京劇の継承形態の一つとする時、その形態の中身も受け継ぐべきではないかと考える。形だけを模倣し、中身を捨てたら、このような継承は無意味である。協同創作の形を形態の形だけでなく、中身の継承も重要な点である。

※この報告レジュメは、2013年3月20日に京都大学で開催された卓越した大学拠点形成支援国際フォーラムにおける教育学研究科国際シンポジウム「実践知と教育研究の未来」のポスター発表の原稿として書かれたものである。